

相澤秀一教授略歴・主要著作目録

略 歴

- 明治三八年七月二四日 高知市に生れる（新潟県在籍）
大正一二年 三月 新潟県糸魚川中学校卒業
昭和二年 三月 第四高等学校理科卒業
昭和五年 三月 京都帝国大学経済学部卒業
昭和五年 四月 京都帝国大学大学院に在学（六年三月まで）
昭和六年 四月 横浜専門学校講師となる
昭和八年 四月 京都帝国大学大学院に在学（九年三月まで）
昭和八年 九月 京都府立第一中学校教諭に就任
昭和一三年 四月 関西大学講師となる
昭和一四年 四月 東亜研究所調査員に就任
昭和一六年 一月 山口高等商業学校教授となる
昭和二年 四月 山口県農地委員（二四年八月まで）
昭和二四年 九月 日本学術会議会員（二七年一月まで）

昭和二七年	四月	大阪市立大学経済学部非常勤講師となる
昭和二八年	六月	大阪市立大学講師となる
昭和三〇年	五月	大阪市立大学教授となる
昭和三四年	四月	大阪市立大学経済学部長を命ぜられる(三六年三月まで)
昭和三五	四月	大阪市立大学大学院経済学研究科委員を委嘱される
昭和三八年	四月	大阪市立大学経済研究会々長に就任(三九年三月まで)
昭和三八年	四月	立命館大学経済学部非常勤講師となる(三九年三月まで)
昭和四〇年	九月	大阪市立大学を定年退職
昭和四〇年一〇月		立命館大学経済学部教授となる
昭和四六年	三月	立命館大学を定年退職

著作目録

著書

黎明期の市民経済学	叢文閣	昭和二年	六月
経済学説史	三笠書房	昭和三年	七月
財政学	三笠書房	昭和六年	五月
経済原論	日本科学社	昭和三年	一月
要約資本論	三一書房	昭和四年	五月

経 済 原 論（経済学全書第一卷）

三 笠 書 房 昭和二十四年二月

資本主義の経済理論

三 笠 書 房 昭和二十五年一〇月

経 済 学 原 論

有 斐 閣 昭和二十八年二月

経済学基礎理論

雄 渾 社 昭和二十九年一〇月

社会科学の道標（編著）

雄 渾 社 昭和四二年 四月

雑誌所載の論稿

生産力と生産関係

唯物論研究（第六号） 昭和 八年 四月

政治経済学批判の意義

唯物論研究（第一六号） 昭和 九年 二月

経済学の自然科学化

唯物論研究（第三七号） 昭和一〇年一月

経済学者としてのジョン・ロック

唯物論研究（第四六号） 昭和一一年 八月

経 財 政 学 序 説（？）

山口商学雑誌（一二卷 三号） 昭和一六年 六月

マカロックの経済学史（書評）？

山口商学雑誌（一二卷 四号） 昭和一六年 八月

価格に就ての一考察（論文）

山口商学雑誌（一三卷 一号） 昭和一七年 三月

利潤論の一齣（論文）

山口商学雑誌（一四卷 一号） 昭和一八年 三月

経済学と価値論（論文）

経済評論第（二卷 三・四号） 昭和二年 四月

経済学の方法（論文）

山口経済学雑誌（一卷 一・二号） 昭和二五年 三月

価値法則の考察(論文)

経済評論(六卷 一号) 昭和二六年一月

社会的必要労働の意義(論文)

山口経済学雑誌(一卷 三号) 昭和二六年三月

マルサス批判(紹介)

経済学雑誌(三一巻 五・六号) 昭和二九年二月

ヴォロディン「ケインズ批判」(批評と紹介)

経済学雑誌(三四巻 三・四号) 昭和三一年四月

経済政策論の意義(研究)

経済学雑誌(三五巻 五・六号) 昭和三一年二月

「資本論」にいうところの法則について(研究)

経済学雑誌(三六巻 五号) 昭和三二年五月

経済学理論の性格(研究)

経済学雑誌(三八巻 三号) 昭和三二年三月

労働価値論について(研究)

経済学雑誌(四〇巻 二号) 昭和三四年二月

経済学史の方法(研究)

経済学雑誌(四二巻 四・五号) 昭和三五年五月

石原忠男「恐怖の経済理論」(書評)

経済学雑誌(四三巻 六号) 昭和三五年二月

経済学の方法(研究)

経済学雑誌(四五巻 三号) 昭和三六年九月

J・イトトン「核時代における社会主義」(紹介)

経済学雑誌(四五巻 六号) 昭和三六年二月

経済政策論序説(研究)

経済学雑誌(四六巻 三号) 昭和三七年三月

宇野弘蔵「経済学方法論」(紹介)

経済学雑誌(四六巻 六号) 昭和三七年六月

「強められた労働」の概念(研究)

経済学雑誌(四七巻 二号) 昭和三七年八月

国家と経済(研究)

経済学雑誌(四八巻 一・二号) 昭和三八年二月

独占利潤についての一考察(研究)

経済学雑誌(五一巻 四号) 昭和三九年二月

経済学の若干の基本問題（論説）

立命館経済学（二四卷 六号） 昭和四一年二月

価値論の基本とその意義

経 済 （第二四号） 昭和四一年五月

吉村達次『経済学方法論』（書評）

立命館経済学（二五卷 三号） 昭和四一年八月

『資本論』成立まで

経 済 （第三七号） 昭和四二年五月

—— 古典経済学と小ブルジョア経済学 ——

『資本論』の周辺（論説）

立命館経済学（二六卷 三・四号） 昭和四二年一〇月

河上・経済学の今日的意義（論説）

立命館経済学（二八卷 一号） 昭和四四年四月

学問と大学（随想）

経 済 （第六三号） 昭和四四年七月